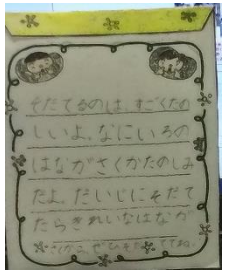
小1プロブレム解消のための指導方法等の工夫について

下関市立豊浦小学校

幼保・小連携の充実

子どもの新しい学校生活への円滑な移行に向けて、幼保・小で、子ども同士、教員同士の交流を充実させ、互いの理解を深めるとともに、接続期のカリキュラムの推進に努める。

子ども同士の交流活動



２学期　生活科
「あさがおのたねをプレゼントしよう」
１年生が生活科で育てたアサガオの種と手紙を園児に送る。

教員同士の交流活動

① ６月・・・年間交流計画、入学後の学校生活について（紙面共有）
② ８月・・・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての研修、２学期・３学期の交流計画（紙面共有）
③11月・・・各園への参観日の案内
④ ２月・・・１年間の振り返り、新年度に向けて

成　果

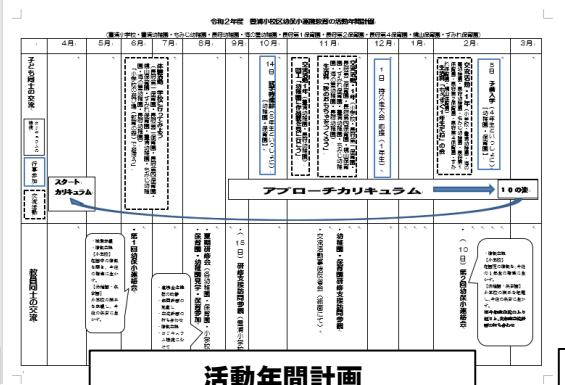
園児に小学校での生活について知らせたり、園でも入学後を想定した指導をしたりしていくことで、園児の不安や戸惑いを軽減し、入学への期待感を高めることができた。

交流計画の成果と課題、入学前後の園児・児童一人ひとりの様子について情報を共有し、個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。

相互に教育活動を参観・体験して、園児・児童の情報や指導方法について学び合うことができた。

カリキュラムの接続

スタートカリキュラム



活動年間計画

スタートカリキュラム作成のためのアンケート

成　果

小学校入学は、ゼロからのスタートではないことや、園で育んできた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知ることで、入学してからの指導方法を考えることができた。また、園児が慣れ親しんだ活動をスタートカリキュラムに生かすことで、育ちを滑らかにつなぐことができた。